

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200060		
法人名	有限会社 和		
事業所名	グループホーム和2号棟		
所在地	士別市東1条2丁目440番地		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	令和3年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022&ani=true&JigyosyoCd=0193200060-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022&ani=true&JigyosyoCd=0193200060-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和 3年 10月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・心や体の変化の把握に努め、安心して生活できる様支援致します。</li> <li>・ご本人の「できること」「大切にしていること」を支えます。</li> <li>・力を発揮できる場面づくりを考えて対応致します。</li> <li>・御家族との繋がりを大切にし対応致します。</li> <li>・地域の中で暮らしていける事を実感できる様個々に合わせた外出支援を致します。</li> <li>・利用者間の関係性の把握に努め、関係作りへの支援をさせて頂きます。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、1ユニットで最寄りの駅やバス停から徒歩圏内にある住宅街に位置しています。広い敷地内には、先に開設した系列事業所が隣接しています。思うような活動が困難な状況下にありながらも、感染症予防対策を万全に行われる5分程度の家族との面会では、利用者の安堵する様子が見られているようです。マスクを着用して周辺の散歩、神社祭の神輿行列の見物、近くの桜見物、馴染みの美容室への同行など、利用者の意向を尊重した支援に取り組んでいます。場所を移しての運営推進会議は、参加者に事業所の実情を伝え意見を得ています。コロナ禍でありながらも消防署や設備会社の協力を得て地震、水害を含む避難訓練の実施や救急救命訓練を行うなど、危機管理体制を高めています。積み重ねてきた知識や技術を基盤とし、安定したケアサービスが実践されています。</p>
---

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示し、朝の申し送り後に復唱し、意識しながらケアに努めている。	利用者の尊厳維持を謳った法人理念を、隣接の事業所と共有しています。職員は、開設以来、理念を取り入れたケアサービスに努め、利用者の当たり前の生活を支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、毎年イベントにも参加をさせて頂いているが、コロナの影響でイベントが中止になり、参加できていない。	以前は、地域行事の参加や幼稚園との交流がありました。自粛生活により地域交流は困難な状況です。そのような中でも、事業所前で神輿行列の見物や年2回自治会の廃品回収への協力、近くの店舗で買い物等を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人へ貢献が出来ていないのが現状だが、年に1回、看護学生の実習があり、認知症高齢者の理解や支援方法を学んでもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1度、運営推進会議を開催し、自治会長、民生委員、市職員、御家族様代表が参加され、意見を頂き、サービス向上に活かしている。会議の内容をまとめ、後日御家族様に郵送している。	感染症予防対策に配慮し、隣接の事業所と合同で定期的に運営推進会議を開催しています。多くの参加者に、利用者の動向や活動報告、感染症予防対策の取り組み等を報告し、その後に得られた意見等を運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、介護保険課や包括支援の職員に来ていただき情報交換し、また機会に応じ、市の担当者と連絡している。	施設長と管理者が、各案件を担い行政担当者と関わり、運営やサービス向上に繋げています。運営推進会議時やケースワーカーの来訪時にも情報交換を行い、利用者の安心を支えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開催している。緊急やむを得ない身体拘束を実施しているが、解除に向けてアセスメントをしている。運営推進会議の中に身体拘束の適正化のための対応検討委員会を設置し、現在実施している緊急やむを得ない身体拘束の報告をしている。報告書の内容はスタッフ間で共有している。	運営推進会議時に身体拘束等適正化委員会を開催し、止むを得ない身体拘束として利用者や家族の同意を得て、ベッド臥床時のみベッド柵の使用を報告しています。定期的に経過や観察、再検討を行い記録に残しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度、身体拘束の勉強会と共に虐待について学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をもとに日常生活自立支援事業、成年後見人制度の違い、必要性について話し合っているが、現在は必要な利用者様が少ない為、支援していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たり、面談と施設見学をして頂き、納得した上で契約を行い、重要事項説明書と重度化した場合の対応指針も説明し、同意書を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見や不満は、その都度傾聴し、スタッフ間で共有を行い、可能な範囲で反映ができる様に努力している。御家族様には毎月の手紙で近況報告し、来設時にも話し、意見や要望を聞き反映・改善に努めている。	利用者や家族からの意見や要望には速やかに対応し、解決までの過程を記録しています。家族には、利用者の日々の暮らしを、面会時や毎月の手紙、年4回の新聞で伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り後やケースカンファレンス時に意見交換のできる時間を持ち、利用者様の困っている事や業務での改善点など、反映が出来るような機会を作っている。	管理者やリーダーは、職員から業務上での気付きや疑問点、個人的要望を傾聴し、迅速に改善に向けた検討を行っています。代表者は、職員のさらなる知識や技術の習得への支援を行い、全体の質の確保に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当、資格手当等、就業規則の整備をしている。毎月休み希望を取り、有給休暇も取りやすいようになっている。外部研修や内部研修での時間外、超勤や休日出勤が発生した時の優遇も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるよう勤務の調整を行い、研修費、交通費、宿泊費などの費用は会社負担としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修などで交流や情報交換は時々あるが、職員が同業者と交流する機会は無いのが現状。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、アセスメントシートを作成し、情報を全スタッフに周知を行っている。入居後の要望や不安などの情報収集し、利用者様のニーズに答えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の思いや家族間の歴史や関係性等、個別性を尊重し、面談の時点からお話をゆっくりできる機会づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時点で担当ケアマネージャーに連絡をしている。その際、状況の共有をし相談をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る、出来ないを把握し、スタッフ間で情報を共有している。また得意な事を生かし、家事などの役割を一緒に行い、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙で近況報告し、面会時では日頃の様子を伝え情報共有をしている。また必要時には電話連絡をし状況を報告し、買物等、御家族様が都合のつく時には依頼し、共に支え合う関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や商店を知り、定期的にご利用し、会話する機会を持っている。また、原則面会禁止ではあるが、短時間で玄関先での面会を実施し、利用者様と御家族様が安心できるように支援している。	コロナ禍により利用者との面会時間は、家族のみ5分間としています。利用者の要望に応え美容室に同行するなど、途切れない関係性を大事にしています。利用者から頼まれた、おやつ等の買い物支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、時には仲介役になり、良い関係性を保てる様に支援している。また独りを好む利用者様には、リビング等に来て頂き、コミュニケーションが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先などでお会いした時には挨拶をし、施設の状況などのお話をさせて頂いている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の情報に捉われず、活動状況や、日々の会話の中から本人の意向を汲み取り、スタッフ間で情報共有し、支援できるように努めている。	利用者は、思いや要望を職員に伝えていますが、意思の疎通が難しい利用者には、日々の記録や仕草等で意向を押し量り、満足感が得られるような取り組みを行っています。花札をしたい、ラーメンを食べたい、桜を見たい等の要望に応じています。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には御家族様に生活歴の記載を協力して頂いている。又、本人との会話の中からや家族様の来設時に情報を得て、職員間で情報を共有し把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報提供や、記録の確認をし、日々の状況を把握し、変化に気がつけるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別記録を参考に、3か月毎に計画作成担当者が立案し、スタッフ間で意見を出し、御家族様に話し合いを行った上でケアプランを作成している。	介護計画は、急変時や更新時に個別の記録やモニタリング表を参考に利用者や家族の意向に沿った支援になるよう作成しています。介護記録に支援目標の実践を記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな気付きや様子を個別記録に日々記入するようにし、毎日の申し送り等で情報共有するよう努め見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族様から希望された事には、職員間で話し合い出来る限り対応させて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書を利用し、利用者様が好まれる本を借りて読んで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族様の希望聞き、かかりつけ医での医療を受けられる様に支援している。また、御家族様が病院に同行される場合には、日々の様子を手紙にし医師に相談して、適切な治療を受けられるようにしている。	利用者や家族の希望する医療機関の受診は家族対応ですが、状況によっては職員が支援しています。毎日来訪の法人看護師による適切なアドバイスを得、利用者の変化にもすぐ対応できています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者様の日々の状況を伝え、変化があった時には相談し、受診、または経過観察をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の情報交換は電話で行い、食事形態、排泄、ADL、内服の変更があるか確認をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応指針を説明し同意を得ている。ターミナルケアは実際に経験したことはないが、看護師に相談しながら、資料をもとに勉強会をしている。	重度化に向けては、契約時に事前指定書で利用者や家族の意向を確認しています。看取りは、訪問医の確保が困難なため行われていません。年1回、消防署職員の指導で救急救命の訓練を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、AEDを使用した心肺蘇生法、骨折時・誤嚥時の対応、熱中症への対応を消防署職員の指導の下、救急救命講習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・水害・夜間帯や日勤帯での火災を想定した訓練を行っている。今後もさまざまな想定を考慮訓練の実施を行う。	年3回、消防署や設備会社の指導の下、日中・夜間想定避難訓練を計画し、今年度は2回目が終わっています。訓練時は全職員が参加や見学をし、危機管理を高めています。地域住民に緊急連絡網の登録を要請しています。	前回の外部評価調査後に目標達成計画を立案し、災害対策強化を掲げていますが、コロナ禍のこともあり地域住民との連携については十分ではありません。行政との連携も含め、継続して取り組むことを期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや希望を伝えやすいような関わりや言葉がけを工夫し、自己選択、自己決定が出来るように努めている。	法令遵守に則り、一人ひとりに沿った対応を基本としています。さらに接遇研修等で意識統一を図っています。言葉遣い等については、管理者が正しい接遇のあり方を助言しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を伝えやすいような関わりや言葉がけを工夫し、自己選択、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その人の体調やペースを尊重し、出来る限り希望に沿えるよう支援している。希望に沿えない場合はその旨を伝え納得して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思に沿い、化粧道具を用意するなど環境を整えた上で自分で出来るよう支援している。認知度により自己決定が困難な利用者様には季節感や清潔感がある服を選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の摂取量や形状を把握し、快適な食事をして頂いている。利用者様の誕生日には好みの食事の提供し、行事食も取り入れている。時々旬の果物を、おやつとして出している。	利用者の要望や彩り、栄養バランス、季節感に配慮した献立に沿って調理専門職員が腕を振るっています。おやつには芋や南瓜団子を、春彼岸にぼた餅、誕生日は希望食を、七夕・夏祭りには露店風に焼きとりやクレープ等を用意しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を記録によって把握することで一定量確保できるよう努めている。また水分制限がある利用者様には、夜にも水分補給が出来るように日中に調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力や状況に応じ毎食後の声掛けや、一部または全介助を行い支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、できる限り不快のないようトイレでの排泄を続け、状況に応じた排泄用品の使用と、アセスメントにより使用回数を減らしていけるよう支援している。	居室にトイレがあり、すぐに使用できるため失敗の軽減につながっています。職員の支援が必要な方もいますが、トイレでの排泄を基本としています。利用者の状態に応じて衛生用品を使用し、不快感や羞恥心を取り除いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や乳製品をすすめたり、腹部マッサージを行い自然排便できるよう対応している。慢性的な便秘の場合は看護師に相談の上、下剤を使用することでコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本は週に3回の入浴日を設定しているが、職員不足により不定期になる事がある。時間や好みの温度を考慮している。シャワー浴で対応している利用者様もいるが、職員の配置が多い時に2人介助で湯船に入って頂いている。	利用者の状態を見ながら、週2～3回の入浴支援を行っています。湯船で寛げるよう努めていますが、困難な時は、浴室を暖め足湯をしながら湯やシャワーで保清しています。入浴時は本音が聞けることもあり、ケアに活かしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの休息・就寝するタイミングを把握し、それに合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名カードをファイルし、処方された薬の目的、副作用等がわかるようになっている。看護師とも内服の情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯たたみ、お茶のバック詰め、野菜の皮むき等、利用者様の出来る事を把握し、手伝って頂いている。買い物時には利用者様の希望を聞き、好みのお菓子等の購入をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、ほぼ外出ができていないが、時々マスク着用での散歩をしたり、美容室への同行を行っている。	コロナ禍以前は、利用者と地域のイベントや利用者の買い物、牧場見学、道の駅等に出かけていましたが、現在は、周辺の散歩や桜見物、美容室への要望があった利用者には同行支援をする程度にとどまっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や御家族様の希望があれば、所持して頂き、買物や美容室等で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室には電話回線が引いてあり、電話を設置できるようにしているが、主に施設の電話で対応している。年賀状を出したいと希望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンと加湿器を配置し、温度、湿度調整をしている。毎月季節を感じられるイラストを掲示し、行事の時の写真を見やすい場所に貼り、少しでも利用者様に楽しんで頂ける工夫をしている。	共用空間は余裕あるスペースで、台所、食堂、居間が一体となっています。エアコンや大型除菌加湿器を備えて快適に過ごせるよう配慮しています。飾り棚には本やレク用品があり、居間にはハロウィンに因んで南瓜のイラスト等も掲示しています。大型の分別ゴミ容器は利用者も使用しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビや移動図書で借りた本、行事の写真や写真をファイルした物や、ちょっとした遊び道具があり、思い思いに過ごしていただけるようにしている。利用者同士やスタッフとの会話も楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物、使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、家族と一緒に写した写真を飾り、最近撮影した写真を見やすい位置に張ったりと、居心地の良い環境作りに配慮している。	7.5畳ある居室は南向きに設計され、トイレや洗面台、小型冷蔵庫、物干しポール、クローゼットを設置しています。入口には顔写真を貼るスペースがあり、自室と認識しやすくなっています。持参の仏壇、テーブル、椅子、カレンダー、趣味の物などが置かれ安心感ある設えになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリーで、廊下には手すりを設置する等、少しでも自分の力を使って歩くことが可能な工夫がされている。また、食卓やリビングが見渡ししやすい構造となっており、見守りが容易な作りとなっている。		